

大学における正課外の日本語学習支援のあり方を考える —日本語相談室の立ち上げと今後の展望—

徳 間 晴 美, 山 内 薫

1. はじめに

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)(2020)によると,日本の大学(学部)で学ぶ留学生数は2019年5月1日時点で89,602人となり,年々増加傾向にある。留学生を受け入れている国内の大学では,入学後のアカデミック・ジャパニーズ教育に始まり,国内あるいは日本企業への就職を目指す留学生の増加を受け,出口支援も急務となっている。インターンシップやビジネス日本語教育,キャリア教育といった,目的に直結した支援のほかにも,在学中の留学生生活全般を支援する留学生支援,日本語支援が求められ,各大学の特色やニーズにあわせた体制が整えられている。

明治学院大学では,現在約200名の正規留学生が学部生として在籍し,大学生活を送っている。学内では,交換留学生を対象として実施されていたバディ制度が,2019年度より正規留学生にも拡大し,日本人学生と留学生間の交流・支援も広がりを見せつつあった。ところが,2020年度の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴う大学教育環境の急変は,明治学院大学も無論例外ではなく,留学生の大学生活を大きく変えることとなった。このような中,筆者らが担当していた日本語の授業での学生の様子から,明治学院大学における日本語学習支援体制⁽¹⁾をあらためて考え,その必要性が浮彫となった。

本稿では,はじめに,他大学の正課外における

日本語学習支援状況をまとめ,そこから示唆される点を勘案して立ち上げた「日本語相談室(オンライン)」(以下,日本語相談室)について報告する。現状の課題を踏まえ,最後に,明治学院大学の今後の日本語学習支援に向けた提言を行いたいと考える。

2. 他大学の正課外日本語支援の状況

筆者らは,明治学院大学で必要とされる正課外の日本語支援のあり方について検討するため,ホームページで詳細に支援体制を掲載している関東圏大学の大学を調査した。各大学の支援体制を以下の内容ごとに表にまとめた。①大学名,②部署,③支援機関名/制度名称,④学部学生数,⑤留学生数,⑥情報年度/日時,⑦期間,⑧実施日時,⑨担当者,⑩対象,⑪対応内容,⑫事前・事後の送付内容,⑬利用方法,⑭通し番号,⑮URL。なお,④および⑤の情報は,調査時(2020年7月)に各大学で公表されている最新の学生数を反映したため,大学により2019年5月1日と2020年5月1日と異なる年度の情報となった。また,本調査では,【日本語相談室,留学生相談室,留学生サポート】というキーワードでのインターネット検索および,大学の日本語教育に携わる教員からの情報を基に,調査対象校を選定した。

以下,調査より得られた情報を,対象とした大学,日本語支援機関・制度・支援員等の名称,支

援の実施日時・形態、支援対象、担当者、対応内容をまとめた上で、2.7で全調査校より明治学院大学と規模的に類似する大学を取り上げ、その特色を提示する。

2.1 対象とした大学

本調査で対象とした大学は、関東圏（東京、神奈川、山梨）13校、全22部署である。国立・私立の分類においては、国立大学5校、私立大学8校である。また、13校の内、1校が4部署、1校が3部署、4校が2部署で正課外の日本語学習支援を行っている。なお、各部署で連携が取られているかは、各大学のホームページには記されていない。以下の大学および部署の情報は、2020年12月1日時点の情報である。

<p>1) 桜美林大学（私立大学・東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語学習リソースセンター（CJL） http://www.7obirin.ac.jp/nihongo/support/ja_cjl.html ライティング・サポートセンター（WSC） https://www.obirin.ac.jp/campus_life/writingsupportcenter.html
<p>2) お茶の水女子大学（国立大学・東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生・キャリア支援センター【学生生活支援部門】 http://www.cf.ocha.ac.jp/student_support/j/menu/counseling/to_student_internationalroom.html
<p>3) 神奈川大学（私立大学・神奈川）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際センター https://www.kanagawa-u.ac.jp/international/campus/japanese/index.html
<p>4) 昭和女子大学（私立大学・東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流センター（CIE） https://cie.swu.ac.jp/international_students/i-support/
<p>5) 電気通信大学（国立大学・東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際教育センター（CIPE） http://www.fedu.uec.ac.jp/current/guide/academic-advisory-system/tutoring-program.html

<p>6) 東京大学（国立大学・東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院総合文化研究科・教養学部 https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/international_offices/advisory_room.html 留学生支援ウェブサイト https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/life-interact-ac-face.html 留学生支援室（International Student Support Room, ISSR） https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/support-issr.html 教務課 国際交流支援チーム https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/inbound/support/tutoring/onetoon/
<p>7) 東京工業大学（国立大学・東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> リベラルアーツ研究教育院 日本語セクション http://js.ila.titech.ac.jp/~web/nospace_j.html
<p>8) 一橋大学（国立大学・東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際教育交流センター http://international.hit-u.ac.jp/jp/curr/support/tutor.html
<p>9) フェリス女学院大学（私立大学・神奈川）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際課 https://www.ferris.ac.jp/international/foreign_students/support/
<p>10) 法政大学（私立大学・東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル教育センター http://www.global.hosei.ac.jp/programs/gairyu/zaigaku/seikatsu/support/
<p>11) 山梨学院大学（私立大学・山梨）</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバルラーニングセンター https://www.ygu.ac.jp/glc/lacomo/japanese_cafe
<p>12) 立教大学（私立大学・東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育センター https://cjle.rikkyo.ac.jp/supportdesk/default.aspx 国際センター（1） https://spirit.rikkyo.ac.jp/international/foreigner/jp/SitePages/tutors.aspx 国際センター（2） https://www.rikkyo.ac.jp/target/foreign/support/
<p>13) 早稲田大学（私立大学・東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育研究センター https://www.waseda.jp/inst/cjl/students/support/waseda/

2.2 日本語学習支援機関・制度・支援員等の名称

正課外における日本語学習支援の名称は、各大学により異なり、日本語学習支援機関、制度、および支援員等に関わる名称を付している。

(1)日本語学習支援機関に関わる名称

- ・留学生日本語学習支援・交流室
- ・にはんご相談室／日本語相談室
- ・留学生相談室
- ・Japanese Café「日本語サポートデスク」
- ・Learning Support Desk

(2)制度に関わる名称

- ・アカデミック・アドバイザー制度
- ・チューター制度

(3)支援員等に関わる名称

- ・留学生アドバイザー
- ・日本語サポート
- ・日本語チューター

2.3 支援の実施日時・形態

日本語学習支援は、大半の大学で、学期期間中に、月曜日から金曜日の週5回あるいは週3回で定期的の開室されている。曜日ごとに対応可能な言語（日本語、英語、中国語等）を明記している大学（東京大学の1部署、早稲田大学）もある。また、支援形態においては、次の3つの形態がある。①担当者が支援室に常駐しており、来室した学生にその場で対応する形態、②Webシステム等の利用申請フォームから予約を受け、個人指導を行う形態、および③①と②の形態を組み合わせる形態。また、2020年度春学期は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応として、Zoomミーティング（以下、Zoom）等の同時双方向型で開催している大学（桜美林大学の1部署、お茶の水女子大学、神奈川大学、東京

大学の1部署、東京工業大学、一橋大学、山梨学院大学、立教大学の1部署）が多いことが確認された。

2.4 支援対象

日本語学習支援の対象としては、正規留学生（学部生、学群生）、短期留学生、学部間協定による留学生、私費留学生とする大学が多い。また、入学当初の学部生と限定する大学（電気通信大学、一橋大学の1部署）や指導教授が必要と認める留学生に限定する大学（立教大学の1部署）もある。その一方で、日本語科目を履修していない学生も利用可能とする大学（山梨学院大学）、留学生の他に帰国生も対象とする大学（神奈川大学）、さらに幅広く、大学所属の日本語学習者を対象とする大学（早稲田大学）もある。

2.5 担当者

支援の担当者においては、多くの大学で、日本語教育を専門とする教員（特に、専任教員、非常勤講師）が担っている（桜美林大学の1部署、神奈川大学、東京大学の1部署、フェリス女学院大学の1部署、山梨学院大学、立教大学の1部署）。次いで、大学院生（お茶の水女子大学）や、教務課でのオリエンテーション受講により活動できるチューター（一橋大学の1部署）が採用されている。その他、日本語学習アドバイザー科目の単位取得者（早稲田大学）、同じ授業を受講する日本人学生（フェリス女学院大学の1部署）、日本語教師養成講座を修了した教員（昭和女子大学の1部署）を採用している大学もある。

2.6 対応内容

対応する内容をまとめると、大きく、次の5項目に分類される。(1)日本語添削／学生生活で必要

大学における正課外の日本語学習支援のあり方を考える－日本語相談室の立ち上げと今後の展望－

となる文章作成, (2)日本語に関する学習サポート, (3)日本語学習アドバイジング, (4)学習リソースに関する情報提供, (5)その他。具体的には、以下のような内容である。

- (1)日本語添削／学生生活で必要となる文章作成
 - ・授業の課題（日本語の論文やレポート、授業のレジュメ、プレゼンテーションの原稿等）
 - ・就職活動関連（エントリーシートや履歴書等）
 - ・奨学金申請書類
 - ・一般的な生活の日本語（手紙やメール等）
- (2)日本語に関連する学習サポート
 - ・基礎学力の向上（苦手科目・未習教科分野）
 - ・授業内容（履修している授業科目の解説）
 - ・授業内容以外（個人の興味関心、専門分野の学習や研究、ゼミの専門的内容の解説、大学院受験の勉強上のアドバイス）
 - ・会話練習
 - ・日本語能力試験（JLPT）対策
- (3)日本語学習アドバイジング
 - ・日本語の学習の方法、今後の学習計画や学習

目標設定に関する相談

- ・日本語学習ポートフォリオ作成
- (4)学習リソースに関する情報提供
 - ・日本語学習に役立つ様々な情報（各種日本語検定試験についての情報、受験に役立つテキストや問題集の紹介等）
 - ・学内機関やサービスの情報（国際交流イベント等）
 - ・インターネットでの日本語学習に関する情報（WEB教材等）
- (5)その他

- ・日本語学習関連図書や教材閲覧の提供
- ・日本生活に役立つ情報提供
- ・日本生活の相談

2.7 明治学院大学と同規模校の特色

本節では、調査対象の大学の内、規模的に明治学院大学と類似する大学を取り上げ、特色を示す。まず、明治学院大学の在籍学生数、および学部留学生数は、2020年5月1日現在で、次の通りである。

表1 同規模校の日本語支援部署および学生数

大学	部署	支援機関名／制度名称	学部学生数	留学生数
桜美林大学 (私立大学・東京)	日本語学習リソースセンター (CJL)	Learning Support Desk	9,635人	正規留学生 学群：487人 交換留学生：48人
	ライティング・サポートセンター (WSC)	日本語セッション		
神奈川大学 (私立大学・神奈川)	国際センター	日本語学習に関するサポート	横浜キャンパス：13,714人 湘南ひらつかキャンパス：3,729人	336人
立教大学 (私立大学・東京)	日本語教育センター	日本語相談室	19,237人	正規課程学生：461人 特別外国人学生：63人

・在籍学生数 11,823名
〈https://www.meijigakuin.ac.jp/disclosure/pdf/2020/2020students_enrollment_percentage.pdf〉

・学部留学生数 202名
〈https://www.meijigakuin.ac.jp/disclosure/number/study_abroad.html〉

上記の学生数に鑑み、調査対象の大学の内、私立大学の学部学生数が約1～2万人、留学生数が200～500名の大学を確認したところ、表1の3校が規模的に明治学院大学と類似することがわかった。なお、学生数は3校とも、2020年5月1日現在の情報として掲載されている。

これら3校の特色をまとめたところ、1)支援に関する特色、2)対象者に関する特色、3)開講場所に関する特色、および4)事前・事後の資料送付に関する特色が捉えられた。まず、1)については、桜美林大学と立教大学では、日本語教育を専門とする教員の担当による日本語学習全般に関する支援と、チューターによる日本語に関するライティングや専門分野に特化した支援に分けて行われている。2)については、神奈川大学では、留学生の他に帰国生も対象とされている。また、立教大学においても、日本語学習全般に関するサポートは、日本語を母語としない学生が対象とされ、留学生に限定されていない。3)については、神奈川大学はキャンパスが二つ(横浜/湘南ひらつか)あり、その両方のキャンパスで、月曜日から金曜日の毎日、開室されている。4)については、同規模の3校が他の大学よりも詳細に明示されており、事前にサポートや添削を希望する資料の送付を受け付けている。また、桜美林大学の1部署では上記に加え、「課題のテーマ」および「セッションの目的」を送付し、事後にセッションに関するアンケートの回答を求めている。

上述した特色について、明治学院大学での支援体制を考えるにあたり、次のような検討を行った。まず、支援員には、留学生を対象とした日本語教育の専門知識がある教員が適切だと考えた。他大学のように、チューターが担当するという案は、明治学院大学には日本語教育を専攻とする学部や大学院(研究科)がないこともあり、現段階では難しいという事情もある。利用対象者については、神奈川大学や立教大学の例に見るように、明治学院大学でも大学内で日本語能力の向上が必要な学生が、正規留学生としてではないかたちで在籍する状況が見られるため、多様な背景を持つ学生に利用機会を提供したいと考えた。さらに、開講場所と資料送付の点からも、3)および4)の特色を参考にし、オンラインでの予約受付・実施が望ましいと考えた。

3. 明治学院大学の現状(日本語相談室開室の経緯と12月時点での利用状況)

3.1 日本語相談室開室の経緯

2020年度春学期は、急遽、大学の授業が非対面式で行われることとなり、大きな混乱の中、動き出した学期であった。入国できない留学生もいる状況の中、日本語科目の多くの授業は、ZoomあるいはTeamsを利用した同時双方向型の授業を実施し、画面越しではあったが履修者の顔は見える状況で授業を進めていた。筆者らが担当した、正規留学生の1年生の必修科目であった日本語科目では、大学生活に馴染む機会も与えられないまま動き出した授業にひとまず参加しているという留学生が、不安そうに映っていた。授業の中では、学生同士が言葉を交わせる時間を多くとるよう心掛けたり、他の履修科目のことを話題に挙げ、自分以外の学生がどのような授業を受けているのか

を時折引き出ししながら、孤独感の軽減を図るようにしていた。

通常、新入生は大学のキャンパスに通っていれば、留学生向けのオリエンテーション等で顔見知りになることもあれば、同じ授業を受ける留学生同士で連絡先を交換し、休み時間を共に過ごすことも多いはずである。しかしながら、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大の影響を受け、そのような機会が得られなかった新入生は、多くの学生が一人で、新しい大学生活に適應しなければならぬ状況にあった。後に、履修生から聞いたところによると、大学から受け取る重要な連絡は日本語の文書で受け取る場合もあり、その内容をなんとか一人で理解しようとしたり、入学後すぐに開始される授業の情報収集を行っていたという。

春学期の中盤を過ぎた頃、履修生から、留学生の日本語について相談できる場所はないかという質問があった。明治学院大学には、全学部全学科の学生が利用できる「ライティング支援カウンター」がある。ここでは、卒業論文を除くレポート全般についての相談が可能であり、チューターとの対話を通じて、レポート作成の問題点に自ら気づき、考えをまとめ、自立した書き手になるための支援が目指され、運営されている。前述の履修生からの質問への返答として、このライティング支援カウンターを紹介したものの、留学生を対象とした相談ができる場所はないかという確認がなされた。また、2020年度春学期より、国際学部内でもライティング支援が始まったが、基本的には国際学部の学生を対象としているため、他学部所属の学生の利用は難しい。これは新入生である留学生の例であるが、非対面式の授業ということで、課題を課す科目が増えている状況であったこともあり、学年に関係なく、日本語でのレポー

ト執筆や課題提出に困っている留学生が多くいるであろうことが想像できた。

このようなやりとりもきっかけとなり、あらためて明治学院大学の中で、留学生を対象とした日本語学習支援体制が現状はなく、そこに対するニーズがあることに気づかされることとなった。そこで、学期終盤、そのニーズを把握するため、約40名の留学生に協力してもらい、日本語に関する支援について、利用希望の有無や利用する場合の利用目的等をウェブ上のアンケートで確認した。結果からは、一定のニーズがあることが掴めたため、秋学期からの運用開始を目指して、オンラインでの日本語相談室を立ち上げる準備を進めることとなった。

3.2 「日本語相談室」(オンライン)の概要

3.2.1 支援方針および対応内容

日本語相談室は、他大学の日本語学習支援情報を参考にした上で、筆者らで目指す支援を描き、以下に示す概要で運営した。

1) 支援方針

正規留学生等、日本語の支援が必要な学生が実りある大学生活を送れるよう、日本語教育の面から日本語に関わる諸問題に寄り添いながら支援を行う。

日本語学習支援と言っても、「支援」の仕方は多様であるため、運営に関わる支援側のメンバーが、共通認識を持つことは必須であり重要である。「日本語相談室」では、「添削」や「指導」といった、一方的なものではなく、双方向のやりとりを行う中で、留学生自身の考えていることを意識化し、それを日本語でどう表現すればいいのかを共に考えるという姿勢で臨むなど、結果的に支援につながることを目指したいと考えた。

2) 対応内容

他大学の例で見たように、日本語学習支援の内容は多様であるが、日本語相談室では、アンケートで回答されていた留学生の声を中心に検討し、また、アンケートで十分に声を聴けなかった3・4年生のニーズを想定し、以下の内容に対応することとした。

- ・日本語の語彙や文法に関する質問
- ・授業（講義・課題）における日本語に関する質問・相談
- ・日本語学習方法に関する質問・相談
- ・その他（面接・奨学金申請・就職に関する相談等）

なお、上記以外の内容について扱うか否かについては、①当該学生の相談事に対し、日本語の運用あるいは日本語の学習に関する支援を行うことがその問題の解決に役立つと考えられること、②セッションの時間内での対応が可能であること、という2点を満たした場合とするという判断基準を設けた。その他、専任教員が引き継いで対応することとしては、大学内によりふさわしいサポートができる専門家がいる場合、また、相談内容が非常に深刻で、セッション後に、個別対応をしたほうが良いと考えられる場合、とした。学内には、修学支援を扱う学生サポートセンター、心理相談を扱う学生相談センター、健康支援を扱う健康支援センターがあるため、必要に応じて、学内で連携をしながら支援することとした。

その他、対応時の留意点として以下3点を担当者間で共有した。

- ・授業のレポート等、評価に影響すると考えられる内容については、添削のみ行うのではなく、自律学習に必要な指導を心がけながら対応する。

- ・学生から授業に対する不満等が出てきたとしても、賛同しない。教員の指導内容に対する評価も行わない。
- ・相談内容の中で知り得た、学生関連情報（家族、友人、アルバイト先等）は他言しない。

3.2.2 2020年度秋学期の「日本語相談室」

立ち上げの期となった2020年度秋学期は、「明治学院大学に在籍する正規留学生および、日本語に関する相談を希望する学生」を利用対象者とし、秋学期の授業日のうち、月曜日から金曜日の昼休み時間である12時55分から13時35分(40分間)で週5回のセッションを設けた。

利用方法は、利用希望者が事前に予約フォーム(Forms)で予約をし、受付完了連絡を経て、Zoomにて1人40分のセッションに参加するというものである。なお、予約時には次のような注意事項を示した。

- ・予約は先着順であること。前日の17時までに行うこと。
(予約は1回ずつ行う。セッション終了後、次回の予約が可能。)
- ・実施前の連絡には、大学アドレスを使用すること。
- ・予約したセッションに参加できなくなった場合は、必ず、キャンセルあるいは日時変更の連絡をすること。
(無断欠席があった場合、次回以降の予約は受け付けない。)
- ・相談内容は、40分で相談できることにすること。

セッションの担当者は明治学院大学日本語科目担当の非常勤講師6名であり、次に示す流れで予

表2 予約からセッション実施報告までの流れ

利用者 (学生)	筆者 (専任教員)	担当者 (非常勤講師)
予約フォーム (Forms) にアクセスし、必要事項 (第1～3希望・相談内容) を入力して予約する。		
	①新規予約情報をメールで受信し、Teamsで詳細情報を確認する。 ②Teams内の予約状況一覧と照合し、候補日を決定する。候補日 (第一希望でない場合もある) を利用者にメールで通知する。	
日程通知メールに返信する。		
	①学生からの返信が来たら、学生情報・相談内容・進捗状況を予約確定情報 (Excel) に入力する。 ②決定日とあわせてZoom招待リンクを利用者にメールで通知する。	
Zoom招待リンク通知メールに返信する。		
	Teamsに確定情報 (利用者の最終確認完了) を入力し、担当者 (非常勤講師) にメールで通知する。	
セッションに参加する。	トラブル対応等のために待機する。	セッションを実施する。
	(実施後) 利用者に「日本語相談室 利用者アンケート」(Forms) への回答を依頼する。	(実施後) Teams内の実施記録シートに記入する。
「日本語相談室 利用者アンケート」に回答する。		

予約からセッション後の実施報告までの手順を整えた。

3.2.3 事前準備

日本語相談室の立ち上げに際し、以下1)～5)の事前準備を行った。

1) 予約システムの構築

予約方法の決定のためにはいくつかの選択肢があったが、準備期間が限られていたこと等からMicrosoft社のクラウドサービスであるOffice365を活用した。具体的には、Formsのアプリケー

ションを用いて、「日本語相談室の予約」フォーム (日本語・英語) および、「日本語相談室 利用者アンケート」のフォームを作成した。そして、あらかじめ作成したTeams内のチーム「2020秋日本語相談室」(執筆者2名と担当者6名)が、Formsへの回答データを確認できるよう、SharepointおよびOutlookに連携させた。

Teams内のチーム「2020秋日本語相談室」では、主に、「担当者資料」と「予約状況」に関する情報を共有することを目的とし、「予約確定情報」、「実施記録」、「曜日別Zoom招待リンク」等のファ

MG日本語サポート

日本語相談室

オンライン

日本語で
困っていませんか

こんなことについて質問・相談ができます！

- ☆ 日本語の語彙や文法
- ☆ レポートで使う日本語表現
- ☆ 日本語の学習方法や教材
- ☆ 大学の授業でわからなかった日本語
- ☆ 面接(奨学金申請・就職活動)での日本語表現

オンライン予約 受付(9/10～)

1回40分
無料


大学の授業に参加する中で、日本語について質問や相談をしたいことがありませんか。日本語相談室では、明治学院大学の日本語の先生が、みなさんの質問に答えたり、相談にのってくれます。

利用できる人: 正規留学生
日本語・日本語学習について質問・相談したい学生

利用時間: 月曜日～金曜日 昼休み(12:55-13:35)

利用方法: オンライン予約 (先着順・前日17時まで)
⇒ 日時についての連絡
⇒ Zoomで参加

オンライン予約



問い合わせ: 徳間 晴美(日本語担当教員) ✉ tokuma@gen.meijigakuin.ac.jp

資料1 2020年秋学期 日本語相談室 案内ポスター (日本語版)

イルを共有ファイルとして保存した。

2) 広報

秋学期の授業開始日からの開室を予定していたため、夏季休暇期間に「2020年秋学期 日本語相談室 案内ポスター(日・英・中)」(資料1)を作成し、学内の関連部署(国際センター、教務課、キャリアセンター、国際学部事務室)にメール等で開設を知らせ、横浜校舎および白金校舎の掲示板へも貼り出した。各学部の教員への周知は秋学期開始後の各学部教授会で依頼した。一方、

学生には、ポートヘボン(明治学院大学ポータルサイト)で通知(全学生向け)し、日本語科目担当者から、クラウド型教育支援サービス「manaba」(以下、manaba)を使つての通知も行った。教養教育センターにおいては、ホームページへの紹介文およびポスターの掲載のほか、教授会において、共通科目内で日本語支援が必要だと見受けられる学生がいた場合には利用を勧める等のお願いをした。

3) 担当者（非常勤講師）との打ち合わせ・確認

担当者（非常勤講師）とは、メールでの連絡を通して、3.2.1で述べた支援方針と対応内容等をまとめた担当者資料の共有を行い、夏季休暇期間中に、Zoomでの打ち合わせを行った。また、開室までに必要な準備として、具体的には、セッションを実施するための環境整備（Zoomの大学アカウントの取得依頼）、Teamsでの情報共有方法の確認、予約から実施報告までの流れおよび、各担当者（非常勤講師）の記入や閲覧が必要なファイルの確認等を行った。セッションは全70セッションであったが、担当日の決定は担当者間で行い、開室前に決定した。

4) 「日本語相談室」の予約ゼロ時の代替業務の依頼

担当者（非常勤講師）には、担当日に予約が入らなかった場合、代替業務として、「日本語相談室」の担当時間内（40分）で、日本語学習支援に関わる情報を収集してもらった。なお、成果物は、①担当者間で共有し、「日本語相談室」（2020年度秋学期）のセッション時に活用する、②今後の明治学院大学での日本語学習支援で活用する、という二つの目的で使用する予定である旨、担当者（非常勤講師）に伝達した。

具体的には、以下のようなトピックから、各担当者の関心に基づき情報を収集した上で、ワードファイルにURL等の情報をまとめ、Teams内に保存してもらった。

- ・日本語学習に役立つアプリの紹介
- ・日本のニュースを外国人向けに発信しているサイト
- ・日本で就職した留学生の体験やエピソードが読めるサイト

- ・留学生の就職活動で重要となるポイント・対策がわかるサイト
- ・無料で学べるオンライン日本語学習サイト
- ・その他、日本語相談室のセッションで役立つようなトピック

5) Formsでの「日本語相談室 利用者アンケート」の作成

日本語相談室の利用者に対しては、負担にならない程度の利用後アンケートを依頼した。内容は、質問項目①「日本語相談室」で、相談したいことや質問したいことが話せましたか、質問項目②（話せなかった場合）理由は何ですか、質問項目③また日本語で困ったことがあったら、「日本語相談室」を使いたいと思いますか（使いたいと思う／わからない／使いたいと思わない）、質問項目④（使いたいと思わない場合）理由は何ですか、質問項目⑤その他（自由に）、というものである。

3.2.4 11月末時点での利用状況

11月末日時点での利用率は約6割で、利用者の特徴としては、2年生の利用はなく、3・4年生と1年生が半々の数であった。相談内容については、主に、以下の5点であった。なお、予約時に、事前の資料提出をした学生もいた。

(1)奨学金関連

- ・奨学金申請の願書および作文の日本語添削
- ・面接練習

(2)就職活動関連

- ・書類（志望動機、企業に提出する質問票）の日本語添削
- ・面接練習

(3)学部の授業関連

- ・授業で課された課題における指示の意味に対

する理解

- ・課題・レポートの日本語添削
- ・履修科目に関わる書類の日本語添削

(4)卒業論文関連

- ・論文執筆の留意点, 論文の作成方法の学習
- ・論文の日本語添削

(5)大学院入学試験関連

- ・願書の日本語添削

上記の相談内容から、来訪理由としては、主に、直近で必要性の高い内容であったことが窺える。その一方で、利用者がこれまでの自分のやり方に行き詰まっていたり、他者から日本語に関する指摘を受けたといった理由による来訪も見られた。例えば、何度もWEBによる面接試験に挑んできたが、次への段階に進めなかったことから就職相談室とは異なる視点を求める利用者や、前学期の科目担当教員からレポートの日本語表現が不自然であるという指摘を受け、前学期のレポートを見直すために来訪する利用者がいた。

また、日本語相談室を複数回利用した利用者は、予約した利用者の内、約6割であった。学生の予約時の相談内容の記載および担当者の実施記録から、再度利用する要因となったのは、上記相談内容の継続性である。例えば、奨学金申請にあたり、日本語添削のため利用した後、数週間後に面接練習のために利用したり、卒業論文等の長文を執筆する度に利用する利用者がみられた。また、別の要因として、日本語科目を履修していないことによる日本語学習の場の必要性も挙げられる。例えば、当初は履修している外国語科目での日本語への翻訳の添削であったが、相談室利用を通して、徐々に利用者自身の日本語能力を内省し、日本語学習の必要性を実感する利用者も見られた。

なお、3.2.3の5)で述べた利用者アンケートの

回答率は約8割であるが、全利用者が「日本語相談室で、相談したいことや質問したいことが話せた」という回答であり、質問項目③については「また日本語で困ったことがあったら、日本語相談室を使いたいと思う」という回答であった。また、⑤その他（自由に）では、日本語相談室の次回の利用希望、利用者自身の日本語能力や日本語使用に対する内省、日本語学習や担当教員の対応に対する肯定的評価、添削に対する担当教員への感謝というものである。

予約時期の特徴としては、奨学金の応募締切時期や大学院への進学準備時期との関連が窺えるが、今学期が初めての学期でもあったことから、予約数の時期的な傾向を掴むまでには、今後、数学期を経て考える必要があると思われる。また、4年生の秋学期にも関わらず、就職活動関連の相談があったことも、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受けている可能性がある。その他、3.2.3の4)で記述した、予約が入らなかった際に担当者が行った代替業務の成果については、2021年度の教養教育センターホームページの一部リニューアルを行う際に活用することを予定している。現状では、日本語相談室の情報が得られるサイトがないため、リニューアルに伴い、教養教育センターホームページ内に日本語相談室に関する情報を常時掲載できるようにし、その中に、日本語学習に役立つ情報を整理して掲載したいと考える。明治学院大学の日本語学習を必要とする学生に有益な情報提供となり、自律学習の支援に貢献できるものと期待する。

4. 明治学院大学「日本語相談室」の今後の課題

明治学院大学には、「日本語支援を必要とする

学生」]として、正規留学生（私費外国人留学生入試枠で入学した学生）として在籍する学生(A)と、正規留学生ではないものの大学生活を送る上で日本語能力の向上が必要な学生(B)がいる。特に、学生(B)については、学内で正規留学生として扱われていないために十分な把握が難しく、学生が問題を抱え込む可能性が高いと考えられる。

学生(A)は学部留学生数として202名（2020年5月1日時点）が在籍している。一方の学生(B)は、例えば、外国にルーツを持つ学生（留学ビザを持たない外国籍の学生のうち、特に家族の事情で来日し、初等・中等教育で日本語を学習した学生や、海外から帰国した日本国籍の学生等）、編入生（日本人学生と同じ条件で編入学・卒業をする学生）、そして、私費外国人留学生入試を実施しない学科⁽²⁾に所属する学生である。

それぞれの現状の課題としては次のようなことが考えられる。まず、学生(A)については、第一に、大学の授業を受けながら日本語能力に不安を感じている学生が多くいるが、日本人の友達等を除き、課題に取り組む際に日本語に関する相談や質問ができる場所が現状はない。なお、前述のとおり、「ライティング支援カウンター」では、客観的な論証の技術等について相談ができるが、日本語学習者の習得段階等を考慮した助言が得られる場所ではない。また、必要とされる、ライティング以外の技能についての相談や質問は扱っていない。第二に、大学生活を送る中で日本語能力向上の必要性を感じつつも、自分に必要な学習方法が見つけれないまま学年が上がり、ゼミでの演習や卒論執筆、就職活動に臨むことになりがちである。就職活動に関しては、キャリアセンターでの支援があるものの、記述内容以前に日本語表現の修正が必要となることが多く、表現力のブラッシュアップの必要性を企業側も認識しているとの話が

聞かれている。一方の学生(B)については、第一に、日本語科目の選択が可能な国際学部国際キャリア学科生以外、原則的には日本語科目を履修することができない上に、日本人の友達等を除き、日本語に関する相談や質問をする場所が現状はない。第二に、学生(A)に比べて成育環境の個別性が高く、日本語習得状況における課題が個々に異なる。大学での学習や就職活動に向けた日本語能力向上が必要であり、それぞれに特化した日本語学習を支援する必要がある。

5. おわりに

明治学院大学には日本語能力の向上を必要とする多様な学生がいる。学内の各部署との調整および連携が今後必要となるため、現時点では具体的な提案は時期尚早かもしれないが、他大学の調査結果および日本語相談室の立ち上げを経て、次のような日本語支援体制を目指したいと考える。

まず、「明治学院大学の教育理念および5つの教育目標⁽³⁾に照らした日本語学習支援目標」として、第一に、学生との双方向的なコミュニケーションを十分にとり、一人ひとりを尊重した支援を行うこと、第二に、学生自身のキャリアデザインに寄り添い、その追求と歩みが力強いものとなるよう支援を行うこと、第三に、社会での人間関係構築におけるコミュニケーション能力の重要性に意識を向けた支援を行うこと、である。具体的な方針案としては、次の4点を挙げたい。①学生の日本語能力および日本語習得状況の個別性が高いことを認識し、個別対応を重視した支援を行う。②短期的な視点だけでなく、大学生活支援あるいはキャリア支援の視点を持って、継続的な関係性を築いた支援を行う。③正規留学生に限らず、明治学院大学に入学した全学生を視野に入れ、日本

語面での躓きが学生の自己実現の妨げとならないように支援を行う。④日本語教育または留学生教育に精通している教員が支援を行う。以上の①から④の内容は、実現のために一つひとつ力を入れて取り組む必要があり、時間も要することである。しかしながら、日本での就職を希望する学生も年々増加傾向にあり、また、外国にルーツのある学生についても同様である。このような社会的状況の中で、明治学院大学の日本語学習支援の充実、明治学院大学の魅力が増すことに繋がると確信する。

注

- (1) ここで述べる日本語学習支援とは、ライティング支援のような特定の技能に限定されたものではない。
- (2) LE(文学部英文学科)、LF(文学部フランス文学科)、PE(心理学部教育発達学科)、KC(国際学部国際キャリア学科)は、私費外国人留学生入試を実施していないため、日本語学習が必要な学生であっても、日本語科目の配当がなく履修できない。(卒業要件科目ではない。)
- (3) 明治学院大学は、建学の精神すなわち「キリスト教による人格教育」と学問の自由を基礎とし、教育理念“Do for Others(他者への貢献)”を実現するため、広く教養を培うとともに、各学部学科において専門分野に関する知識・技能および知的応用能力を身につけた人間を育成することを目的とする。このような目的のもと、5つの教育目標を定める。1. 他者を理解する力を身につける。2. 分析力と構想力を身につける。3. コミュニケーション力を身につける。4. キャリアをデザインする力を身につける。5. 共生社会の担い手となる力を身につける。(大学ホームページ「明学について」<https://www.meijigakuin.ac.jp/about/doforothers/policies/goals/index.html>より抜粋)

参考文献

- 青木直子 (2013) 『外国語学習アドバイザープロのアドバイスであなただけの学習プランをデザインする—』(Kindle版).
- 桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」(2007) 『自律を目指すことばの学習—さくら先生のチュートリアル—』凡人社
- 木下直子・トンプソン美恵子・毛利貴美・尹智鉉(2017) 「日本語学習アドバイザー育成をめざしたコースの可能性と課題—履修者と現職アドバイザーの比較を通して—」『日本語教育方法研究会誌』23(2), 30-31.
- 黒田史彦 (2012) 「留学生支援システムの構図」(特集 教室中心主義からの解放)『早稲田日本語教育実践研究』刊行記念号, 7-24.
- 田中望・斎藤里美(1993) 『日本語教育の理論と実際—学習支援システムの開発—』大修館書店
- 独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) (2020) 『2019(令和元)年度外国人留学生在籍状況調査結果』独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) ホームページ
(<https://www.studyinJapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/date/2019.html>) (参照 2020-11-30)
- 永井弘行 (2010) 『令和2年6月改訂 Q & A 外国人・留学生支援「よろず相談」ハンドブック』セルバ出版
- 南雲智・寺石雅英 (2020) 『留学生の就活入門—日本で就職したい留学生のために—』論創社
- 古屋憲章・千花子・孫雪嬌 (2017) 「自律学習支援から考える日本語教育の公共性」川上郁雄編『公共日本語教育学—社会をつくる日本語教育—』くろしお出版, 171-177.
- 守谷智美 (2015) 「留学生支援としての日本語教育の可能性」『大学教育研究紀要』第11号, 139-150.
- 守谷智美・尾関史・坂田麗子・田中敦子・福池秋水・小高葉子 (2012) 「留学生支援システムにおける行動指針とスタッフ・ディベロプメントに関する検討」(特集 教室中心主義からの解放)『早稲田日本語教育実践研究』刊行記念号, 39-53.
- 横田雅弘・白玉悟 (2004) 『留学生アドバイザー—学習・生活・心理をいかに支援するか—』ナカニシヤ出版